KENWOOD

オーディオ ビデオサラウンドレシーバー

KRF-V4060D

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

付属のリモコンについて

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードを持っています。
リモコンを有効に使用するためにもこの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたなどをよくご理解の上でご使用ください。
リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたを知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

B60-5203-00 00 (ID) (J) NV 0109

はじめに

取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、操作編、リモコン操作編、その他、の4つの章に分かれています。

準備編

安全上のご注意、お手持ちのオーディオおよびビデオ機器との接続のしかたや、サラウンド設定などの準備のしかたを説明しています。
まずはじめに安全上のご注意をよくお読みください。またお手持ちのオーディオやビデオ機器によっては、接続がとても複雑になることがありますので、取扱説明書をよくお読みのうえ、接続してください。

操作編

本機で使用できる各種機能の操作方法を説明しています。

リモコン操作編

他の機種をリモコンで操作するための方法を説明しています。各種の設定、登録を済ませておくと、本機とお手持ちのAV機器（テレビやビデオ、CDプレーヤー等）が、本機に付属のリモコンだけで操作できるようになります。

その他

「故障かな？と思ったら」、「定格」などを示してあります。

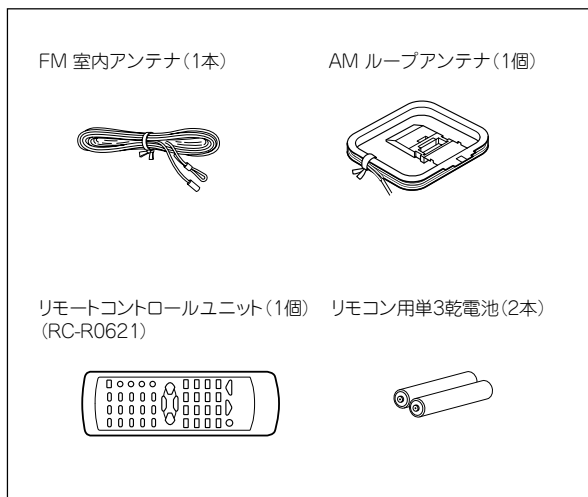
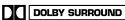
付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

FM 室内アンテナ（1本）

AM ループアンテナ（1個）

リモートコントロールユニット（1個）
（RC-R0621）

リモコン用単3乾電池（2本）

本機の特長

多彩なホームシアター機能

本機には、ご家庭で映像ソフトを十分に楽しんでいただくために多彩なリッスンモードを用意しています。お手持ちの機器や、再生する映像ソフトに合わせてモードを選び、お楽しみください。 →26

Dolby Digital

ドルビーデジタルモードでは、ドルビー デジタルフォーマットのデジタル信号の入力を、デジタルサラウンドで楽しむことができます。DOLBY DIGITALフォーマットでは、最大5.1チャンネルのデジタル信号が独立して入力されるので、従来のドルビーサラウンドに比べて、圧倒的に高音質で迫力ある臨場感を楽しむことができます。

Dolby PRO LOGIC II

DOLBY PRO LOGIC IIは、従来のPRO LOGICとの互換性を持ちながら、より高いサラウンド効果を生み出します。通常のステレオ録音やドルビーサラウンド録音のソフトでも、「5.1ch」のように聞こえます。PRO LOGIC IIは空間全体に影響を及ぼすような、前後に広がりのあるサウンド空間をつくり出すのが特長です。PRO LOGIC IIは DOLBY SURROUND マークのあるビデオソフトでは感動的なサラウンドサウンドを生み出し、音楽CDでは3次元的なサウンド空間をつくり出します。お好きな音楽で本格的なステレオサウンドをお楽しみください。

DTS (Digital Theater System)

DTSは新しいサラウンド方式で、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。dts マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音に厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサウンドが特長です。
ご注意：
CD、LDまたはDVDプレーヤーでDTSディスクを再生中に、アナログ出力端子から雑音が出ることがあります。プレーヤーのデジタル出力は本機のデジタル入力に接続することをお勧めします。

DSP サラウンドモード

本機のDSP（デジタルシグナルプロセッサー）では、"ARENA"、"JAZZ CLUB"、"THEATER"、"STADIUM"、"DISCO"といった様々な質の高い音場効果が得られます。ほとんどの音源で楽しむことができます。

CINEMA EQ

CINEMA EQモードは再生音をより迫力のあるものにします。ドルビーデジタルまたはDTS再生中にCINEMA EQ ONスイッチを入れることで、この感動的なサウンド効果をお楽しみいただけます。

共通赤外線リモコン

リモコンで働くほとんどのオーディオ、ビデオ機器を本機のリモコンで操作できます。接続した機器を簡単な手順で登録することができます。

お手入れのしかた

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

ステレオ音のエチケット

音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、隣り近所への配慮を十分いたしましょう。特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、
ご使用の前に必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

⚠ **警告** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

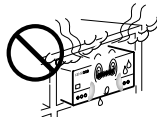
⚠ 警告

交流100ボルト以外の電圧で使用しない

この機器は、交流100ボルト専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

放熱に注意

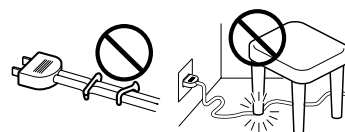
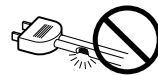
設置の際は、壁から10cm以上離してください。
機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔ですので、ふさがないようにご注意ください。

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 風通しの悪い狭い所に押し込まない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上において使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

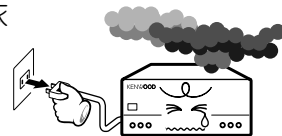
風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

電源コードの取扱い

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定しないでください。また、電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら(芯線の露出、断線など)修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は

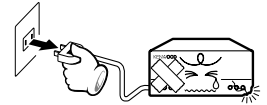
煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

⚠ 警告

電源プラグは清潔に

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

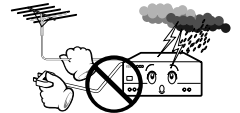
きれいにしましょう

落下した機器は使わない

機器を落としたり、カバーやケースがこわれた場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

ケースを絶対に開けないでください

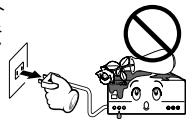
機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴り始めたら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かないでください。
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に水や異物などが入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電池は放置しない

電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。ボタン電池など小型の電池は特にご注意下さい。
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

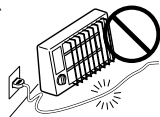
乾電池は充電しない

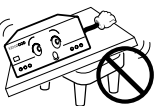
乾電池は充電しないでください。
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

充電禁止

⚠ 注意

電源コードを熱器具に近付けない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近付けないでください。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所には置かない

窓を閉めきった自動車の中や、直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

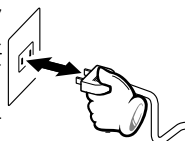
電源プラグの抜き差しは

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。
発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

⚠ 注意

長期間使用しないときは

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となることがあります。

機器に乗らない

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

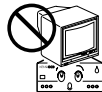
指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
指定以外のコードを使用したりコードを延長すると発熱し、やけどの原因となることがあります。

指をはさまない

お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に手を入れないようご注意ください。
指がはさまれて、けがの原因となることがあります。

指定機器以外の物を乗せない

この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

レーザー光源はのぞかない

レーザー光源をのぞき込まないでください。
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

アンテナ工事

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

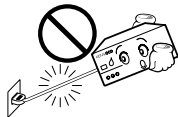
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

⚠ 注意

音量に気をつけて

はじめに音量(ボリューム)を最小にしてください。
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにしてください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動させる際は

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"−"の向き)に注意し、表示通りに入れてください。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

お手入れの際は

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電の原因となることがあります。

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

各部のなまえと働き

メインユニット

周波数表示
入力切換表示
プリセットチャンネル表示
サラウンドモード表示
CINEMA EQ.表示
AUTO DETECT表示
DTS表示
スピーカー表示
MUTE表示
放送バンド表示
DIGITAL表示
選局モード表示
CLIP表示
メモリー表示
ST受信モード表示
受信表示
TONE表示
DOLBY DIGITAL表示
DSP表示
LOUDNESS表示
スピーカー選択表示
入力チャンネル表示
出力チャンネル表示
STEREO表示
96kHzfs表示
PRO LOGIC表示
ディスプレイ

SP CLIP TONE MUTE CINEMA EQ. 96kHzfs LOUDNESS L C R LFE SW SL S SR FM AM kHz MHz AUTO DETECT DTS DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DIGITAL DSP STEREO AUTO MEMO. ST. TUNED

KENWOOD STANDBY ON/STANDBY SPEAKERS ON/OFF POWER ON OFF PHONES DIMMER LISTEN MODE DSP DTS DOLBY DIGITAL CINEMA EQ INPUT MODE BAND AUTO MEMORY SOUND SET UP MULTI CONTROL INPUT SELECTOR VOLUME CONTROL DOWN UP MUTE

❶ **POWER ON/OFFキー** → 19
主電源のオン/オフを切り換えます。

❷ **ON/STANDBY(⏻)キー** → 19
主電源がオンのとき、スタンバイ状態のオン/オフを切り換えます。
STANDBYインジケーター

❸ **DIMMERキー**
録音モードを変えます。 → 24
ディスプレイの明るさを調節します。 → 30

❹ **LISTEN MODEキー** → 28
リッスンモードを選ぶときに使います。

❺ **サラウンド表示**
DSP モード表示 → 28
DSPモードのときに点灯します。
DTS モード表示 → 28
DTSモードのときに点灯します。
DOLBY DIGITAL表示 → 28
ドルビーデジタルモードのときに点灯します。

❻ **SOUNDキー** → 29
音質や音場を調節したいときに使います。

❼ **MULTI CONTROLつまみ** → 19
いろいろな設定に使います。

❽ **INPUT SELECTORつまみ** → 22
入力を切り換えます。

❾ **VOLUME CONTROLつまみ** → 22

❿ **PHONES端子** → 23
ヘッドホンで聴くときに使います。

⓫ **SPEAKERS ON/OFFキー** → 21
スピーカーのオン/オフを切り換えます。

⓬ **CINEMA EQキー** → 23
CINEMA EQの状態を切り換えるときに使います。

⓭ **INPUT MODEキー** → 12
フルオート入力、デジタル入力、アナログ入力を切り換えます。

⓮ **BANDキー** → 24
放送バンドを切り換えます。

⓯ **AUTOキー**
“TAPE”表示と“MD”表示の切り換えに使います。 → 21
オート選局モードを選ぶときに使います。 → 24

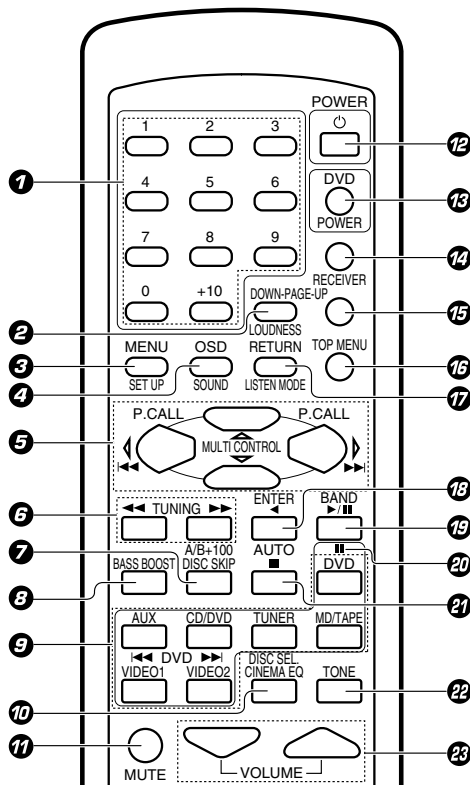
⓰ **MEMORYキー** → 25
放送局を登録するときに使います。

⓱ **SET UPキー** → 19
スピーカーの設定などをするときに使います。

⓲ **MUTEキー** → 22
音を一時的に消すときに使います。

スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンできます。

リモコン

本体とリモコンで機能が同じでも、キーまたはつまみの名称が異なるものがあります。本取扱説明書の説明文中では、本体とリモコンで名称が異なる場合は、リモコンキーの名称をかっこ内に表記します。

❶ **数字キー** → 25
CDやMDを接続したときに数字キーとして使用します。また、TUNERを接続したときは、放送局を選ぶときに使用します。

❷ **DOWN-PAGE-キー**
DVDの操作に使用します。
LOUDNESSキー → 22
低音域を上げる時に使用します。

❸ **MENUキー**
DVDの操作に使用します。
SET UPキー → 19
サラウンド再生を設定するときに使います。

❹ **OSDキー**
DVDの操作に使用します。
SOUNDキー → 29
音質や音場を調節したいときに使います。

❺ **MULTI CONTROL△/▽キー** → 19
いろいろな設定に使用します。
他の機器やシステムに接続した機器の操作に使用します。
P.CALL|◀◀/▶▶|キー → 25
チューナーのプリセットをするときに、P.CALLキーとして使用します。
|◀◀/▶▶|キー
接続したCDプレーヤー、MDプレーヤーを操作するとき、スキップキーとして使用します。

❻ **TUNING◀◀/▶▶キー**
チューナーや接続した機器の操作に使用します。
接続したCDプレーヤー、MDプレーヤー、TAPEを操作するとき、サーチキーとして使用します。

❼ **A/Bキー**
ダブルカセットデッキを接続したときにA、Bのカセット切り換えに使用します。
+100キー
マルチCDプレーヤーのディスクを選ぶときに使用します。
DISC SKIPキー
マルチCDプレーヤーを接続したときに、ディスクスキップキーとして使用します。

❽ **BASS BOOSTキー** → 22
低音域を調整できる最大値に設定します。

❾ **INPUT SELECTORキー (DVD, AUX, CD/DVD, TUNER, MD/TAPE, VIDEO1, VIDEO2)** → 22
入力ソースを選択します。
|◀◀ DVD ▶▶|キー
接続したDVDプレーヤーを操作するとき、スキップキーとして使用します。

❿ **DISC SEL.キー**
他の機器の操作に使用します。
CINEMA EQキー → 23
映画の音声効果を切り換えます。

⓫ **MUTEキー** → 23
音を一時的に消します。

⓬ **POWER(⏻)キー**
レシーバーの電源のオン/オフを切り換えます。

⓭ **DVD POWERキー**
DVD装置の電源をオンにします。

⓮ **RECEIVERキー**
レシーバーの操作をするときに使用します。

⓯ **-PAGE-UPキー**
DVDの操作に使用します。

⓰ **TOP MENUキー**
DVDの操作に使用します。

⓱ **RETURNキー**
他の機器の操作に使用します。
LISTEN MODEキー → 28
リッスンモードを選ぶときに使います。

⓲ **ENTERキー**
他の機器の操作に使用します。
◀キー
他の機器の操作に使用します。

⓳ **BANDキー** → 24
放送バンドを切り換えます。
▶/❚❚キー
接続したCDプレーヤーを操作するときは、再生/一時停止キーとして使用します。
接続したMDプレーヤーやTAPEを操作するときは、再生キーとして使用します。

⓴ **❚❚キー**
他の機器の操作に使用します。

㉑ **AUTOキー** → 24
ラジオ放送の自動受信モードを選びます。
■キー
接続したCDプレーヤーやMDプレーヤー、TAPEを操作するときは、停止キーとして使用します。

㉒ **TONEキー** → 22
音質を調節するときに使用します。

㉓ **VOLUMEキー** → 22
レシーバーの音量を調節します。

⚠ 注意　接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は12ページ～18ページをご覧ください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障かな?と思ったら」を参照してマイコンをリセットしてください。 →33

⚠ 警告　ACコンセント

背面のACコンセントに接続する装置の消費電力の合計が指定値を超えないようにしてください。火災の原因になります。
電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。
また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

ご注意

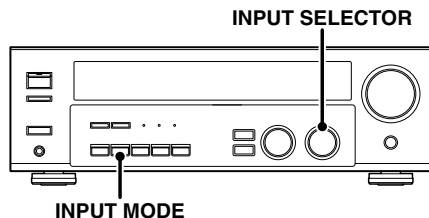
1. 機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4. 屋外アンテナの設置は危険を伴いますので、販売店、または専門の技術者にご依頼ください。
5. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

アナログ接続について

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。オーディオピンコードは赤い端子（R側に接続）と白い端子（L側に接続）のペアになっています。これらのコードはお手持ちの機器に付属されています。もしくはお近くの販売店で購入してください。

インプットモードの設定

CD/DVD、**VIDEO2**、**DVD**の入力は、それぞれデジタル音声入力とアナログ音声入力の端子を持っています。
接続した機器をどちらの入力で再生するかをあらかじめ選んでおく必要があります。
アナログ音声の信号を再生したいとき（ビデオデッキを接続したときやデジタル接続をしていないとき）は、接続した入力端子の入力モードをアナログに設定してください。
接続を終了し、本機の電源を入れた後に以下の操作でインプットモードを選んでください。

INPUT SELECTOR

INPUT MODE

❶ **INPUT SELECTORつまみでCD/DVD、DVDまたはVIDEO2を選ぶ。**

❷ **INPUT MODEキーを押す。**

押すたびに切り換わります。

DTSモードのとき（DTS表示が点灯）

① **F-AUTO**　（デジタル入力、アナログ入力）
② **D-MANUAL**　（デジタル入力）

CD/DVD、VIDEO2、またはDVD再生中のとき

① **F-AUTO**　（デジタル入力、アナログ入力）
② **D-MANUAL**　（デジタル入力）
③ **ANALOG**　（アナログ入力）

デジタル入力 ：
DVD、CD、LDなどに記録されているデジタル音声信号を再生したいときに選びます。

アナログ入力 ：
カセットテープ、ビデオテープ、レコードなどに記録されているアナログ音声信号を再生したいときに選びます。

オートディテクト ：
F-AUTOモード（ディスプレイ内の**AUTO DETECT**と**DIGITAL**インジケーター点灯）では、デジタルかアナログの入力信号を選び、優先的にデジタル入力信号を自動的に選びます。また、デジタルソース再生時に入力信号の種類(ドルビーデジタル、PCM、DTSなど)とスピーカーの設定に合わせてリッスンモードを自動的に選びます。
工場出荷時はフルオート設定になっています。
現在選んでいるリッスンモードを固定したいときは**INPUT MODE**キーで“ **D-MANUAL** ”（マニュアルサウンド）を選んでください。
このとき、リッスンモードと再生信号の組み合わせによっては、ドルビーデジタル再生信号に合わせてリッスンモードを自動的に選択する場合があります。
INPUT MODEキーをすばやく押すと、音声が聞こえないことがあります。その場合再度INPUT MODEキーを押し直してください。

ビデオ機器の接続

VIDEO
DVD IN
MONITOR OUT
VIDEO 2 IN
VIDEO 1 IN
VIDEO 1 OUT

AUDIO
REC OUT VIDEO1
PLAY IN VIDEO1
PLAY IN VIDEO 2
DVD

VIDEO IN
モニターテレビ
映像入力（黄色のRCAピンコード）

映像 (Video) IN/OUT

IN

IN

音声 (Audio) IN/OUT

ビデオデッキ

OUT
映像入力または映像出力（黄色のRCAピンコード）

OUT
音声入力または音声出力

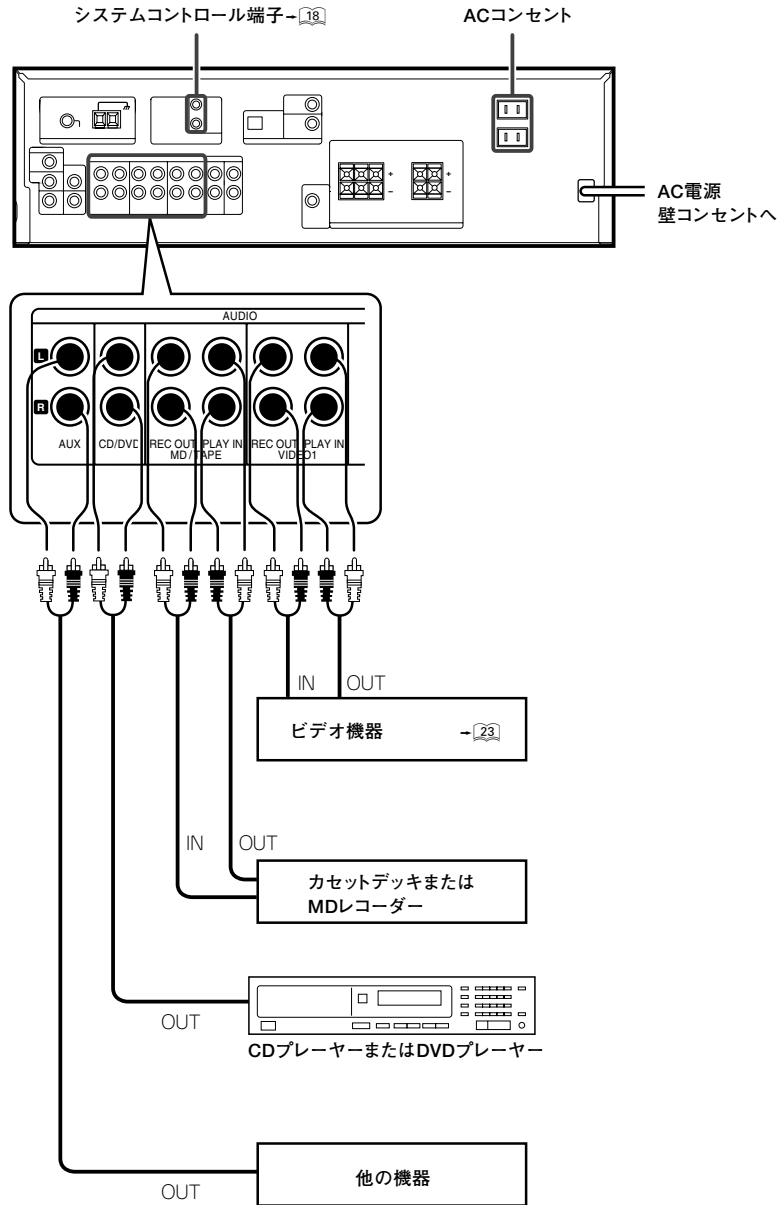
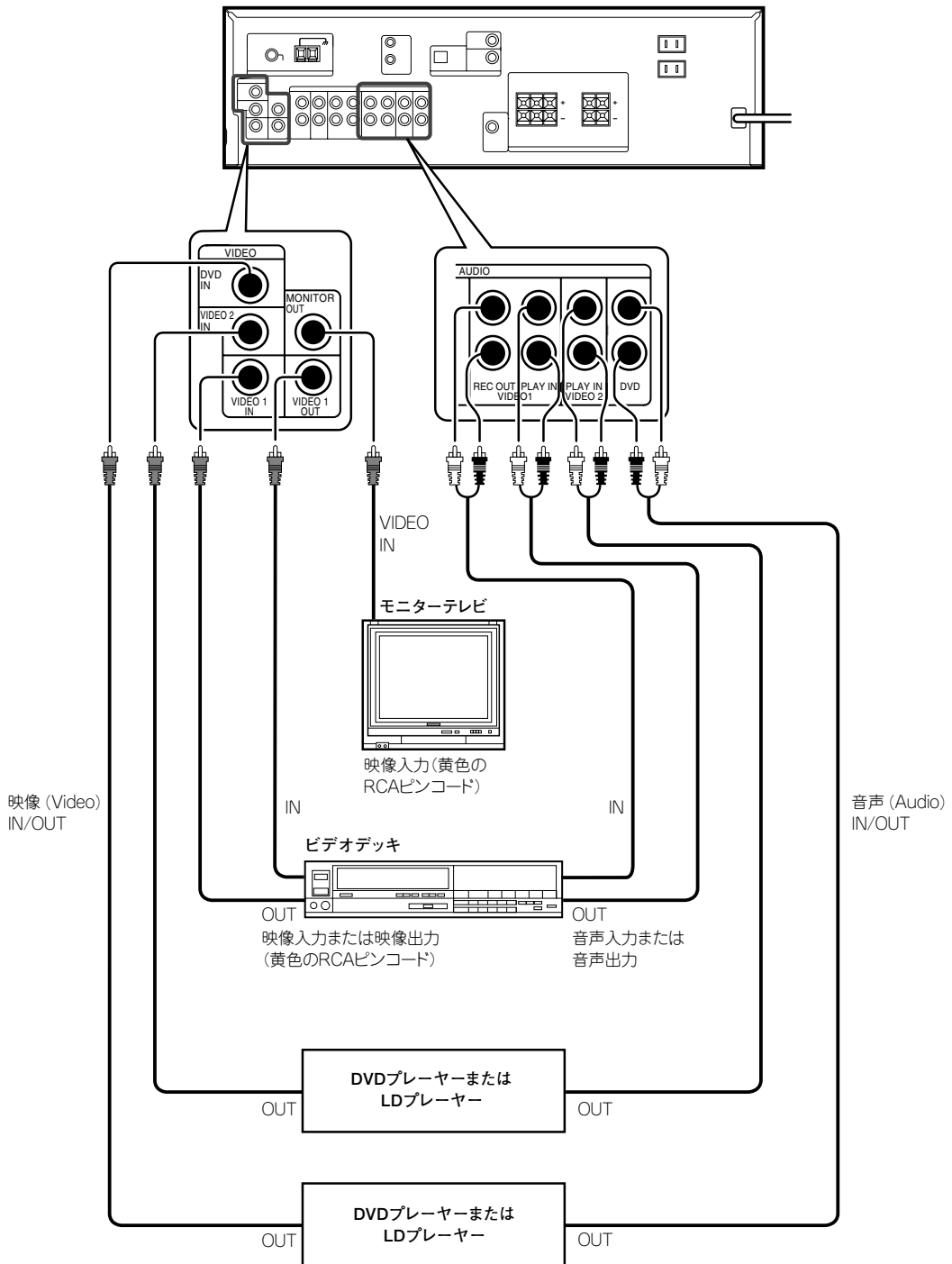
DVDプレーヤーまたはLDプレーヤー

OUT

OUT

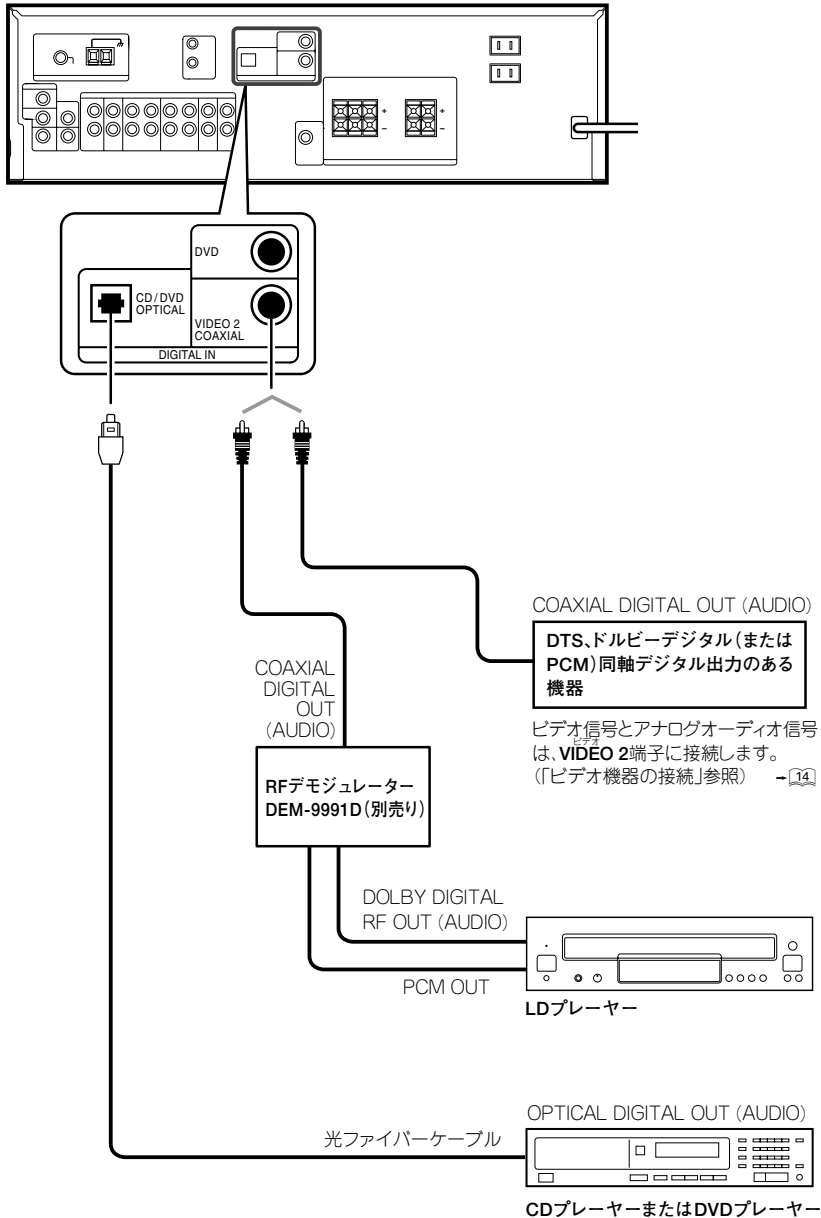
DVDプレーヤーまたはLDプレーヤー

OUT

OUT

デジタル音声出力のあるビデオ機器をお持ちの方はVIDEO（ビデオ） 2端子に接続してください。

デジタル機器の接続

デジタル入力端子はドルビーデジタル、DTSまたはPCM信号で使用できます。ドルビーデジタル、DTSまたはPCM標準フォーマットのデジタル信号を出力できる機器を接続します。
デジタル機器を接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 →12

DVD
CD / DVD OPTICAL
VIDEO 2 COAXIAL
DIGITAL IN

COAXIAL DIGITAL OUT (AUDIO)

DTS、ドルビーデジタル（またはPCM）同軸デジタル出力のある機器

ビデオ信号とアナログオーディオ信号は、**VIDEO 2**端子に接続します。
（「ビデオ機器の接続」参照） →14

COAXIAL DIGITAL OUT (AUDIO)

RFデモジュレーター DEM-9991D（別売り）

DOLBY DIGITAL RF OUT (AUDIO)

PCM OUT

LDプレーヤー

OPTICAL DIGITAL OUT (AUDIO)

光ファイバーケーブル

CDプレーヤーまたはDVDプレーヤー

DIGITAL RF OUT端子のあるLDプレーヤーを接続するには、LDプレーヤーを別売りのRFデモジュレーター（DEM-9991D）に接続します。
それから、デモジュレーターのDIGITAL OUTを本機のDIGITAL IN端子に接続します。
ビデオ信号とアナログオーディオ信号をVIDEO 2端子に接続します。（「ビデオ機器の接続」参照）

スピーカーの接続

フロントスピーカー

右　左

センタースピーカー

FRONT SPEAKERS (6-16Ω)

CENTER SPEAKER (6-16Ω)

\+

–

R L C

RED WHITE GREEN

SUB WOOFER PRE OUT

SURROUND SPEAKERS (6-16Ω)

\+

–

R L

GRAY BLUE

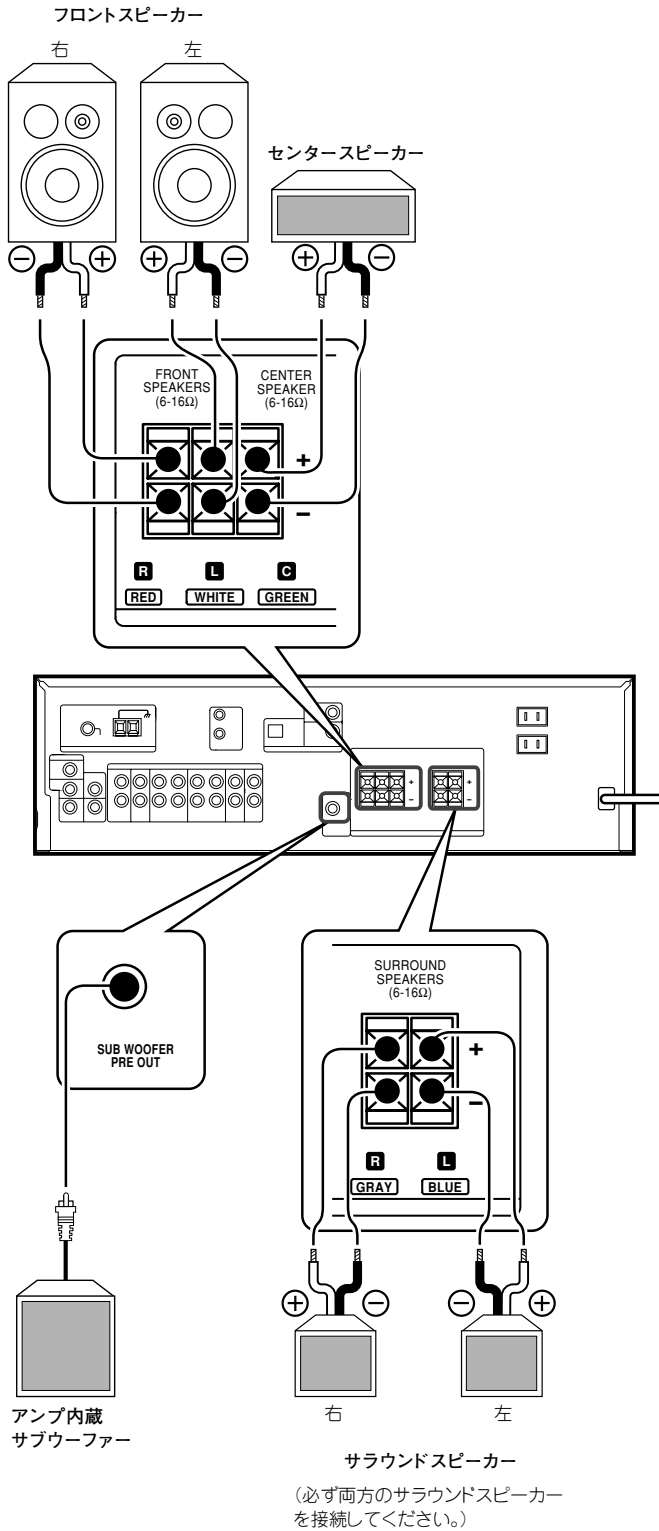
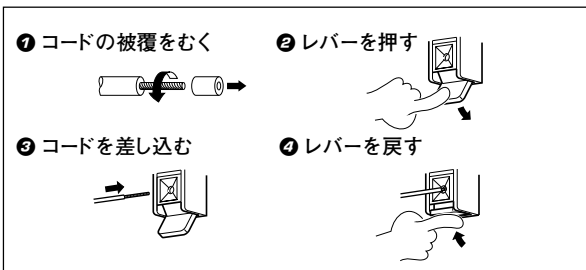
アンプ内蔵
サブウーファー

右　左

サラウンドスピーカー

（必ず両方のサラウンドスピーカーを接続してください。）

スピーカーターミナルの接続

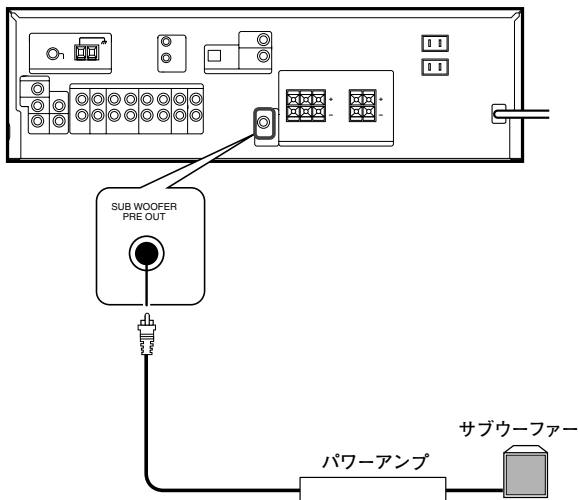
❶ コードの被覆をむく　❷ レバーを押す　❸ コードを差し込む　❹ レバーを戻す

- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

スピーカーインピーダンス

フロントスピーカー .... 6～16 Ω
センタースピーカー .... 6～16 Ω
サラウンドスピーカー .... 6～16 Ω

プリアウトの接続

本機はサブウーファー用のプリアウト端子を備えています。アンプを内蔵していないサブウーファーを接続する時は、下記の例のようにパワーアンプを接続する必要があります。

SUB WOOFER PRE OUT
サブウーファー
パワーアンプ

- スピーカーコードを**PRE OUT**(プリ アウト)端子に接続しても、サブウーファーからは音は出ません。
- **PRE OUT**(プリ アウト)端子を使用するときは、**SPEAKERS ON/OFF**(スピーカーズ オン オフ)キーをオンにしてください。

アンテナの接続

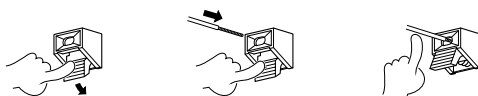
⚠ 注意　屋外アンテナ設置上のご注意

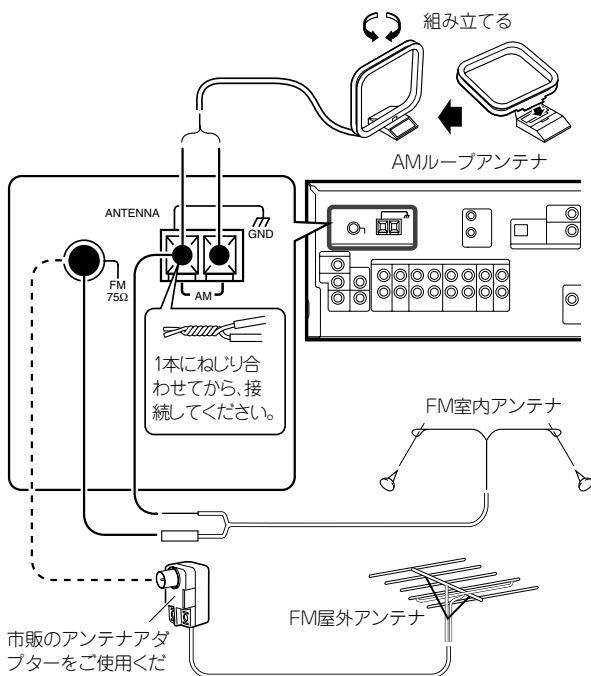
アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

AMループアンテナの接続

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。

AMアンテナ端子の接続のしかた

❶ レバーを押す　❷ コードを差し込む　❸ レバーを戻す

FM室内アンテナの接続

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします。屋外アンテナを接続したら、室内用アンテナは取り外してください。

組み立てる
AMループアンテナ
ANTENNA
GND
FM 75Ω
AM
1本にねじり合わせてから、接続してください。
FM室内アンテナ
FM屋外アンテナ
市販のアンテナアダプターをご使用ください。

FM屋外アンテナの接続

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM**75Ω**端子に接続します。

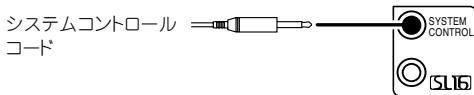
システムコントロール接続

ケンウッドのオーディオコンポーネントシステムを接続したとき、システムコントロールコードを接続することで、便利な機器相互間のシステムコントロール動作が可能になります。

ケンウッドのシステムコントロールには、2種類のモードがあります。本機は [SL16] のモードのみに対応しています。[SL16] のモードに対応した機器と接続してください。

システムコントロール切り換えスイッチがある機器の場合は、[SL16] モードに切り換えて接続してください。

システムコントロールコード

SYSTEM CONTROL

SL16

- システムコントロールコードは、上下どちらの端子でも接続できます。

接続例：[SL16] モード接続

下線部が選ばれているシステムコントロールモードを示します。

モード	機器
[SL16]	レシーバー
[SL16] [XS] [XS 8] [XR]	カセットデッキまたはMD レコーダー
[SL16] [XS] [XS 8]	CD プレーヤー
[XS]	レコードプレーヤー

システムコントロールコード

- システムコントロールを使うには、各機器を各機器の端子に正しく接続してください。CDプレーヤーを使う場合はCD端子に、カセットデッキまたはMDレコーダーを使う場合は、MD/TAPE(テープ)端子に接続してください。2台以上のCDプレーヤーを接続する場合などは、CD端子につないだ1台だけをシステムコントロールできます。
- CDプレーヤー、カセットデッキには、[SL16] モードに対応している機器と対応していない機器があります。対応していない機器はシステムコントロール接続しないでください。
- MDレコーダーには、システムコントロールに対応していない機器があります。これらの機器はシステムコントロール接続はできません。

ご注意

1. [SL16] 以外のモードとのシステム動作の組み合わせはできません。もし、このような組み合わせであった場合は、システムコントロールコードは接続しないでください。システムコントロールを接続しなくても、通常の性能、操作性が損なわれることはありません。
2. 当社指定以外の機器との接続は、故障の原因となりますのでおやめください。
3. システムコントロールプラグは根元まで差し込んでください。

システムコントロール動作について

リモートコントロール

本機に付属するシステムリモコンで、ソース機器を操作することができます。

オートマチックオペレーション

ソース機器側の再生を始めると、本機の入力切換が自動的にその機器の入力切換に切り換わります。

シンクロ録音

CD、MDを録音するときに、プレーヤーの再生を始めると、連動して録音をスタートさせることができます。

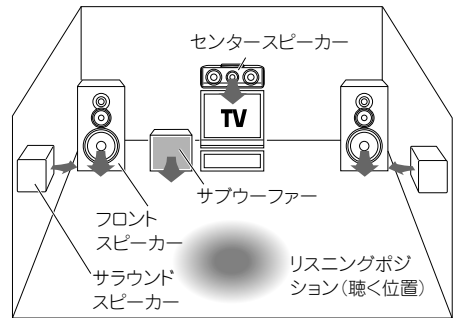
サラウンドスピーカーの設置のしかた

センタースピーカー

TV

サブウーファー

フロントスピーカー

リスニングポジション（聴く位置）

サラウンドスピーカー

フロントスピーカー：前面左右に設置します。モードにかかわらず必ず使用します。

センタースピーカー：前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。サラウンド再生には必ず必要です。

サラウンドスピーカー：座る位置の真横または少し後ろで、聴く人の耳の位置より1メートルほど上方に、水平な状態で設置してください。音の移動感や臨場感などを再現します。サラウンド再生には必ず必要です。

サブウーファー：重低音を迫力ある音で再現します。

- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーまたはサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。 →19

サラウンド再生の準備をする

リモコンの準備

電池を入れる

❶ ふたを開ける

❷ 電池を入れる

❸ ふたを閉める

● 単3乾電池（R6）2本を極性マークにしたがって入れる。

操作のしかた

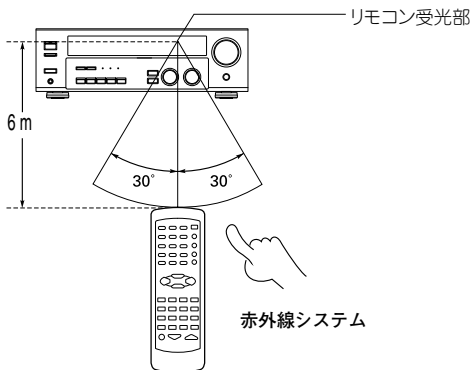
本機がスタンバイ状態のときに、リモコンのPOWER(⏻)キーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

操作範囲のめやす

リモコン受光部

6m

30° 30°

赤外線システム

● リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

ご注意

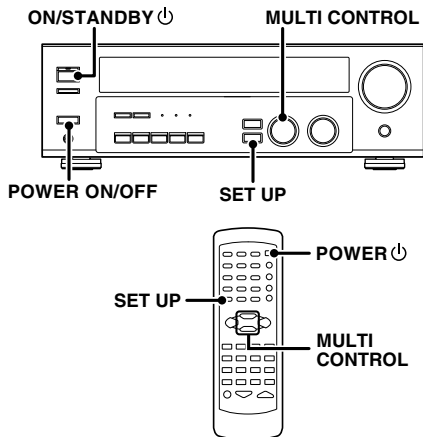
1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り換えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式など）の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

スピーカーの設定をする

工場出荷時は初期設定状態になっていますので、接続したスピーカー（サブウーファー、フロント、センター、サラウンド）の各種設定をします。

ON/STANDBY⏻　MULTI CONTROL

POWER ON/OFF　SET UP

POWER⏻　SET UP　MULTI CONTROL

1 ***POWER ON/OFFとON/STANDBY⏻キーまたはPOWER(⏻)キーを押して本機の電源をオンにする。***

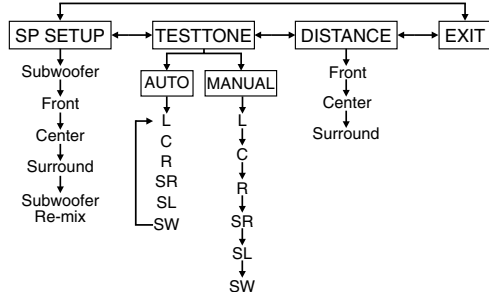
2 ***SET UPキーを押してSET UPモードにする。***

SET UPモードでは、MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使うと、次のように表示が切り換わります。

① **SP SETUP**
② **TESTTONE**
③ **DISTANCE**
④ **EXIT**

SET UPフローは以下のようになります。

SP SETUP ↔ TESTTONE ↔ DISTANCE ↔ EXIT

- SP SETUP: Subwoofer → Front → Center → Surround → Subwoofer Re-mix
- TESTTONE: AUTO (L, C, R, SR, SL, SW) / MANUAL (L → C → R → SR → SL → SW)
- DISTANCE: Front → Center → Surround

3 ***接続しているスピーカーを選ぶ。***

❶ **SP SETUPを選択してSET UPキーをもう一度押すと、サブウーファー設定表示"SUBW ON"があらわれます。**

SUBW ON

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使ってサブウーファーの設定をする。**

① **SUBW ON**　：サブウーファーの設定をONにするとき。
② **SUBW OFF**　：サブウーファーの設定をOFFにするとき。

次頁に続く

● 初期設定は"SUBW ON"になっています。
● "SUBW OFF"を選んだ場合はフロントスピーカーは自動的に"FRNT LRG"(ラージ)に設定されます。手順❻にすすんでください。
手順❻の前に、SET UP(セットアップ)キーを押して確定させます。
● サブウーファーからの音声を再生したいときは、"FRNT NML"(ノーマル)を選びます。

❸ SET UP(セットアップ)キーを押して確定させる。
● フロントスピーカーの設定表示は、"FRNT LRG"になります。

FRNT LRG

❹ MULTI CONTROL(マルチ コントロール)つまみ、またはMULTI CONTROL(マルチ コントロール)キーを使ってフロントスピーカーの設定をする。

① **FRNT NML(ノーマル)**:普通のフロントスピーカーのとき。
② **FRNT LRG(ラージ)**:大きめのフロントスピーカーのとき。

● "FRNT LRG"(ラージ)を選んだときは、サブウーファーの設定を"SUBW ON" にしてもサウンドソースによっては、サブウーファーからは音が聞こえない場合があります。"SUBW ON" に設定し、CINEMA(シネマ) EQを選ぶと、サブウーファーから音が聞こえます。
ステレオモードでは、音声がフロントスピーカーに直接送られます。

❺ SET UP(セットアップ)キーを押して確定させる。
● センタースピーカーの設定表示は、"CNTR"になります。

❻ MULTI CONTROL(マルチ コントロール)つまみ、またはMULTI CONTROL(マルチ コントロール)キーを使ってセンタースピーカーの設定をする。

フロントスピーカーを"LRG"に設定したとき
① **CNTR NML**(ノーマル):普通のセンタースピーカーのとき。
② **CNTR LRG**(ラージ):大きめのセンタースピーカーのとき。
③ **CNTR OFF**:センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

フロントスピーカーを"NML"に設定したとき
① **CNTR ON**:センタースピーカーの設定をONにするとき。
② **CNTR OFF**:センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

❼ SET UP(セットアップ)キーをもう一度押して確定させる。
● サラウンドスピーカーの設定表示は、"SURR"になります。

❽ MULTI CONTROL(マルチ コントロール)つまみ、またはMULTI CONTROL(マルチ コントロール)キーを使ってサラウンドスピーカーの設定をする。

センタースピーカーを"LRG"に設定したとき
① **SURR NML**(ノーマル):普通のサラウンドスピーカーのとき。
② **SURR LRG**(ラージ):大きめのサラウンドスピーカーのとき。
③ **SURR OFF**:サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

センタースピーカーを"LRG"以外に設定したとき
① **SURR ON**:サラウンドスピーカーの設定をONにするとき。
② **SURR OFF**:サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

❾ SET UP(セットアップ)キーをもう一度押して確定させる。
● サブウーファーリミックスの設定表示は、"SW RE-MIX"になります。

"SW RE-MIX"の文字がスクロールします。

SW RE-MI

● サブウーファーの設定がOFFのときは、サブウーファーリミックスは設定できません。

❿ MULTI CONTROL(マルチ コントロール)つまみ、またはMULTI CONTROL(マルチ コントロール)キーを使ってサブウーファーリミックスの設定をする。

① **RMX ON**:サブウーファーリミックスの設定をONにするとき。
② **RMX OFF**:サブウーファーリミックスの設定をOFFにするとき。

⓫ SET UP(セットアップ)キーを押して確定させる。
● スピーカーの音量レベルを調節するモードになります。
● 4、5では選ばれたスピーカーで調整が必要なチャンネルのみ表示されます。

4 各スピーカーの音量レベルを調節する。

実際に聴く位置でテストトーンを聴いて、各スピーカーが同じ音量レベルになるように調整します。

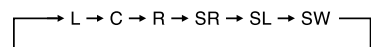
❶ TEST TONE(テスト トーン)を選択して、SET UP(セットアップ)キーを押すと、AUTO(オート)、MANUAL(マニュアル)選択表示になります。

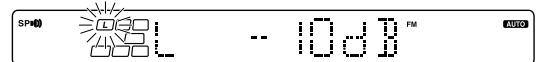
① **AUTO**(オート)
② **MANUAL**(マニュアル)

❷ MULTI CONTROL(マルチ コントロール)つまみ、またはMULTI CONTROL(マルチ コントロール)キーを使ってAUTO(オート)、またはMANUAL(マニュアル) TEST TONE(テスト トーン)を選択する。
AUTO(オート)またはMANUAL(マニュアル)を選択するために、もう一度SET UP(セットアップ)キーを押します。

調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときにMULTI CONTROL(マルチ コントロール)つまみ、またはMULTI CONTROL(マルチ コントロール)キーを使って音量レベルを調節する。

AUTO(オート)を選択した場合、以下の順でテストトーンが2秒ずつ聞こえます。

L → C → R → SR → SL → SW

テストトーン出力中のチャンネルが点滅します。

L -10dB

● 再生時に各スピーカーの音量レベルを変更すると、この項で設定した内容も変わります。 →29
● スピーカー設定をOFFにすると、設定したスピーカーレベルはリセットされます。

❸ SET UP(セットアップ)キーを押す。
● テストトーンが止まり、スピーカーまでの距離を入力するモードになります。

❹ MANUAL(マニュアル)を選択した場合、スピーカーチャンネルを選ぶごとにSET UP(セットアップ)キーを押します。

5 スピーカーまでの距離を入力する。

❶ SET UP(セットアップ)表示からDISTANCE(ディスタンス)を選び、SET UP(セットアップ)キーをもう一度押します。

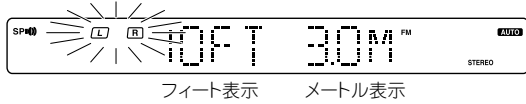
❷ リスニングポジション(聴く位置)から各スピーカーまでの距離をはかる。

メモしておきましょう。
フロントスピーカーまで ______ メートル
センタースピーカーまで ______ メートル
サラウンドスピーカーまで ______ メートル

❸ MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使ってフロントスピーカーまでの距離を選ぶ。

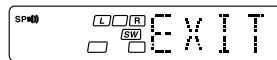
調整するスピーカーが点滅します。

10FT 3.0M

フィート表示　メートル表示

- 0.3m〜9.0mまで、0.3mごとに調整できます。

❹ SET UPキーを押し確定させる。

❺ ❸、❹を繰り返して各スピーカーまでの距離を入力する。

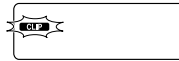
❻ 全てのスピーカーを確定するとセットアップは終了し、下記の表示にかわります。

EXIT

- 選ばれたスピーカーが表示部に表示されます。正しく選ばれているか確認してください。

❼ EXITを表示中にSET UPキーを押すと、SET UPモードは終了します。

インプットレベルの調整（アナログ再生時のみ）

アナログソースから入力されている信号が大きすぎるとき、CLIP表示が点滅します。インプットレベルを調節してください。

CLIP

❶ INPUT SELECTORつまみで調整したいソースを選ぶ。

- それぞれの入力ソースに異なる入力レベルを記憶することができます。

❷ SOUNDキーを繰り返し押して "INPUT" 表示にする。

❸ MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使ってレベルを調整する。

INPUT -6

- 調整モードは約8秒間表示されます。
- インプットレベルは 0dB、−3dB、−6dBの3段階で調節できます（初期設定は0dB）。

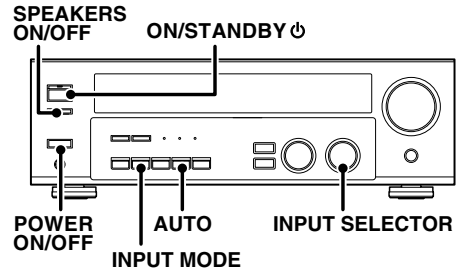
❹ SOUNDキーをもう一度押して、入力表示に戻す。

再生のしかた

再生をする前に

再生をする前に必要な準備をしておきましょう。

SPEAKERS ON/OFF　ON/STANDBY⏻

POWER ON/OFF　AUTO　INPUT SELECTOR　INPUT MODE

電源の入れかた

❶ 関連機器を接続し、電源をオンにする。

❷ POWER ON/OFFとON/STANDBY⏻キーを押して本機の電源をオンにする。

インプットモードの選択

CD/DVD、VIDEO 2、またはDVDに接続した機器で再生するときは、インプットモードが接続した機器の再生する音声信号（デジタル入力またはアナログ入力）に合っていることを確認してください。 ➡12

MD/TAPE の選択

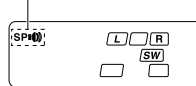
MD/TAPE端子に接続した機器に入力の名称を合わせてください。工場出荷時は、"TAPE" になっていますので、"MD" に変更したいときは以下の操作を行ってください。

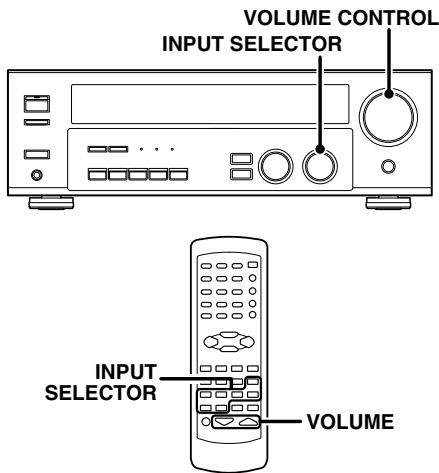
❶ INPUT SELECTOR つまみで "TAPE" を選ぶ。

❷ AUTOキーを2秒以上押し続ける。

- 入力表示が "MD" に変わります。
- 元の表示に戻したいときは、操作❷を行ってください。

スピーカーの設定

スピーカー表示を点灯させる

SPEAKERSキーでスピーカーをONまたはOFFに切り換える。

普通の再生

1 *INPUT SELECTOR つまみ、またはINPUT SELECTORキーで聴きたいソースを選ぶ。*

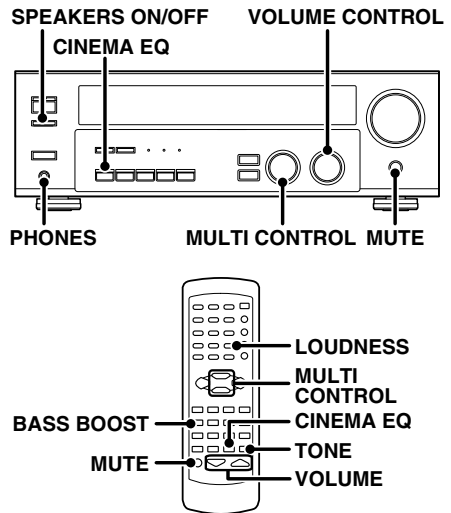
入力ソースは、次のように切り換わります。

INPUT SELECTORつまみで選ぶとき。

① "AUX"
② "TUNER"
③ "CD/DVD"
④ "TAPE" または "MD"
⑤ "VIDEO1"
⑥ "VIDEO2"
⑦ "DVD"

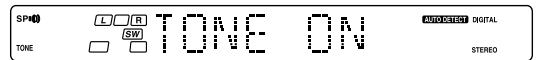
2 *選んだソースを再生する。*

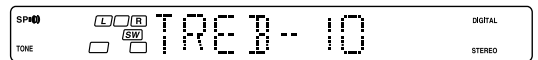
3 *VOLUME CONTROLつまみ、またはVOLUME キーで音量を調節する。*

音の調節のしかた

音質を調整する(リモコンのみ)

音質は、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっているときに調節できます。

❶ **TONEキーを押して、TONE ON/OFF選択表示にする。**

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使ってON/OFFを選択する。**

❸ **TONE ONを選択してもう一度TONEキーを押すと、以下のように切り換わります。**

① **TONE**:TONE設定をオン/オフにする。
② **BASS**:TONE設定がオンのとき低音域を調整する。
③ **TREB**:TONE設定がオンのとき高音域を調整する。

❹ **MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使って音質を調整する。**

- 低音と高音のレベルは−10から+10の範囲で2ステップごとに調節できます。
- 調整項目は約8秒間表示されます。
- CINEMA EQを選択している場合は、TONE機能は調整できません。

ワンタッチで低音域を強調する (バスブースト)(リモコンのみ)

音質は、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっているときに調節できます。

BASS BOOSTキーを押す。

- 低音域を調整できる最大値(+10)に設定されます。
- TONE設定は、自動的にONになります。
- 音質や音場の調整モード中、またはTONE設定がOFFの時は使用できません。

もとの状態にもどすには

もう一度BASS BOOSTキーを押します。

ラウドネスモード（リモコンのみ）

ラウドネス機能は、音楽の深みを保つ低音設定を調節することができます。レシーバがPCMステレオモードかアナログモードになっているとき調節できます。

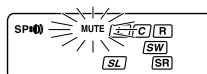
LOUDNESSキーを押してLOUDNESS設定をONにする。

解除するには

もう一度LOUDNESSキーを押して“LOUDNESS”表示を消灯させます。

一時的に音を消す

スピーカーの音を一時的に消します。

MUTE キーを押す

解除するには

もう一度MUTEキーを押して“MUTE”表示を消灯させます。

- ボリュームつまみを回しても解除されます。

CINEMA EQモード

ドルビーデジタルまたはDTS再生中にCINEMA EQ ONスイッチを入れることで、この感動的なサウンド効果をお楽しみいただけます。

CINEMA EQキーを押す。

“CINEMA EQ”の文字がスクロールします。

- CINEMA EQがオンの時、サブウーファーリミックスが働きます。
- REC MODEがオン、またはTREBLEレベルが-6かそれ以下のときは、CINEMA EQ機能は働きません。

解除するには

もう一度CINEMA EQーキーを押すと、“CINEMA EQ”表示が消え、“OFF”が表示されます。

- CINEMA EQをオフにしても、次の設定が選ばれるまでその設定が存続していることがあります。

ヘッドホンで聴く

❶ **SPEAKERS ON/OFFキーを押してスピーカーON/OFF表示を消灯させる。**

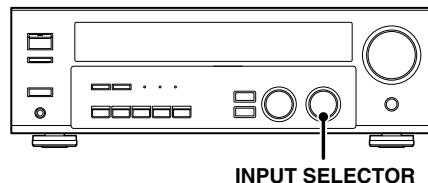
消灯を確認します。

- サラウンドモード時にすべてのスピーカーをオフにすると、サラウンドモードは解除され、ステレオ再生になります。

❷ **ヘッドホンをPHONES端子につなぐ。**

❸ **VOLUME CONTROLつまみ、またはVOLUMEキーで音量を調節する。**

録音（録画）のしかた

録音のしかた（アナログソース）

INPUT SELECTOR

音楽ソースを録音する

❶ **INPUT SELECTOR つまみで録音するソース（“MD/TAPE” 以外）を選ぶ。**

❷ **TAPE、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。**

❸ **ソースを再生し、録音を開始する。**

録画のしかた

❶ **INPUT SELECTORつまみで録画するソース（“VIDEO 1” 以外）を選ぶ。**

❷ **VIDEO 1に接続したビデオデッキを録画待機状態にする。**

- デジタルソースを録画するために、REC MODEを選びます。

❸ **ソースを再生し、録画を開始する。**

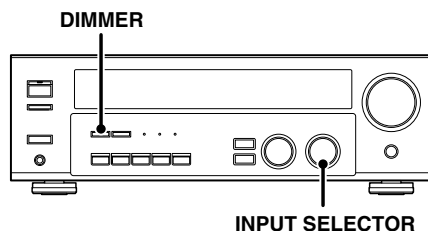
- 録画するビデオソースによってはコピープロテクトが働き、録画できないことがあります。 →33

録音のしかた（デジタルソース）

デジタルソースには通常のステレオ信号以外にも、DTS、ドルビーデジタルなどマルチチャンネルの信号があります。本機を**A-REC**（**Auto-Record**=自動録音）モードに設定すると、自動的にすべてのデジタルソースをステレオ2チャンネルにダウンミックスして、録音することができます。

ただし録音中にデジタル信号の種類が変わると、変わった最初の部分で音声がとぎれることがあります。

A-REC（またはM-REC）モードで録音する

DIMMER

INPUT SELECTOR

❶ **INPUT SELECTORつまみで録音するソース（CD、DVDまたはVIDEO2）を選ぶ。**

❷ **TAPE、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。**

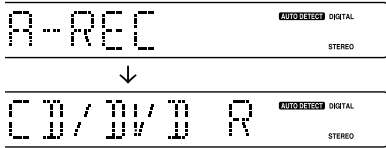
次頁に続く

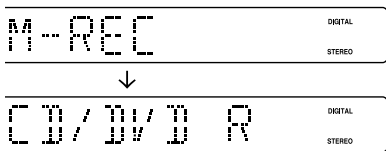
❸ DIMMERキーを2秒以上押して、A-RECまたはM-RECモードを選ぶ。

- 2秒ごとに次のようにモードが変わります。

① RECモードオフ ：オフ
② A-REC ：デジタル信号（DTS、ドルビーデジタル、PCM）が自動的にステレオ信号にダウンミックスされます。
③ M-REC ：デジタル信号（DTS、ドルビーデジタル、PCM）を固定します。

A-REC モード

A-REC
↓
CD/DVD R

M-REC モード

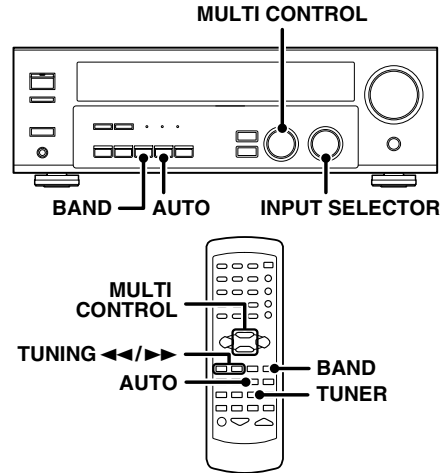
M-REC
↓
CD/DVD R

❹ ソースを再生し、録音を開始する。

- 音声が出力されないときはDIMMERキーを押します。

放送を聴く

放送局を最大40局まで記憶させ、ワンタッチで受信することもできます。

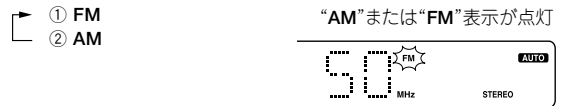
放送を受信する

MULTI CONTROL
BAND AUTO INPUT SELECTOR
MULTI CONTROL
TUNING ◄◄/►►
AUTO
BAND
TUNER

1 *INPUT SELECTOR つまみ、または TUNERキーでチューナーを選ぶ。*

2 *BANDキーで放送バンドを選ぶ。*

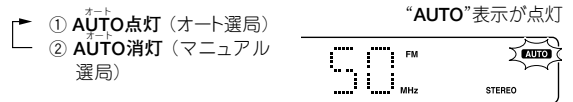
押すたびに以下のようにバンドが切り換わります。

① FM
② AM

"AM"または"FM"表示が点灯

3 *AUTOキーで選局方法を選ぶ。*

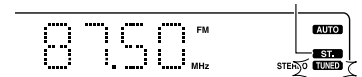
押すたびに以下のようにチューニング方法が切り換わります。

① AUTO点灯（オート選局）
② AUTO消灯（マニュアル選局）

"AUTO"表示が点灯

- 通常は、"AUTO"（オート選局）にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局にします。（マニュアル受信のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。）

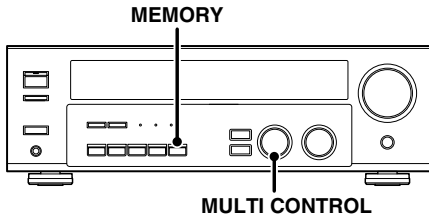
4 *MULTI CONTROLつまみ、MULTI CONTROLキー、またはTUNING◄◄ / ►►キーで放送局を選ぶ。*

周波数表示

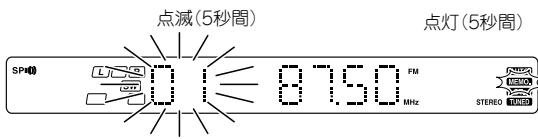
ステレオ番組のとき、"ST"表示が点灯

受信すると、"TUNED"が点灯

オート選局のとき ：自動的に次の放送局を受信します。
マニュアル選局のとき ：受信するまでつまみを回し（またはキーを押し）ます。

放送局を記憶させる

MEMORY
MULTI CONTROL

1 記憶させたい放送局を受信する。

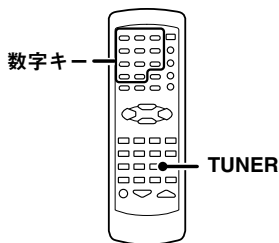
2 受信中にMEMORY(メモリー)キーを押す。

点滅(5秒間)　点灯(5秒間)

5秒以内に手順3へ進む。
(5秒以上たった場合は、もう一度MEMORY(メモリー)キーを押します。)

3 MULTI CONTROL(マルチ コントロール)つまみを使って1〜40のプリセット番号を選ぶ。

4 MEMORY(メモリー)キーをもう一度押して確定させる。

- 1、2、3、4を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

記憶させた放送局を受信する

数字キー
TUNER

1 TUNER(チューナー)キーでチューナーを選ぶ。

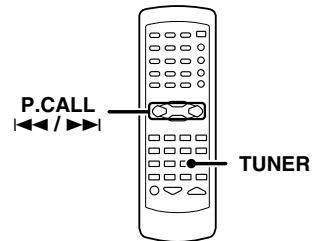
2 数字キーで目的の放送局のプリセット番号を押す(最大"40")。

数字キーを押す順序は...

"15" なら... +10 , 5

"20" なら... +10 , +10 , 0

- 10の桁を押し間違えたときは、+10キーを数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。

記憶させた放送局を順に聴く(P.CALL(プリセットコール))

P.CALL
⏮ / ⏭
TUNER

1 TUNER(チューナー)キーでチューナーを選ぶ。

2 P. CALL(コール) ⏮/⏭キーで目的の放送局を選ぶ。

- キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

P. CALL(コール) ⏭キーを押すと

→ 01 → 02 → 03 → ... → ... → 38 → 39 → 40

P. CALL(コール) ⏮キーを押すと

01 ← 02 ← 03 ← ... ← ... 38 ← 39 ← 40 ←

⏭ または ⏮キーを押したままにすると、約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。

臨場感を楽しむ

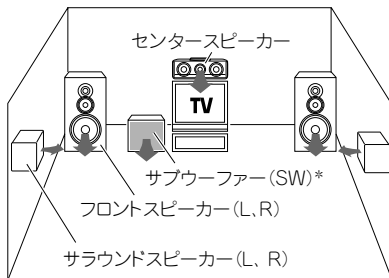
本機のリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。
サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を行ってください。 →19

サラウンドモードの種類

DTS（Digital Theater System）

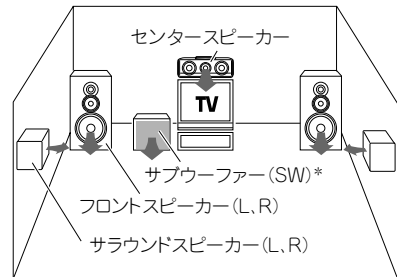
DTSは新しいサラウンド方式で、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。dts マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音に厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサウンドが特長です。

センタースピーカー
TV
サブウーファー（SW）*
フロントスピーカー（L、R）
サラウンドスピーカー（L、R）

* オプショナルモード

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
DTSには5.1またはLFEチャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“**LFE**”表示が点灯します。

Dolby Digitalサラウンドモード

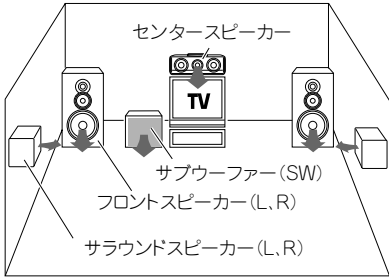
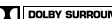
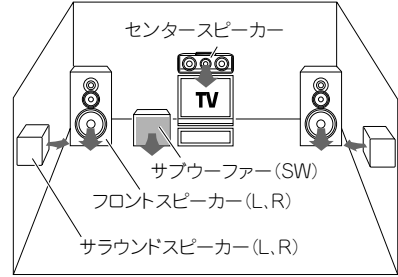
ドルビーデジタルサラウンドモードでは、ドルビーデジタルプログラムソース（DOLBY DIGITAL マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど）からの5．1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビーデジタルモードは、音質、空間的な広がり、そしてDynamic rangeの面で、はるかに優れた効果を演出します。

ご注意
5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー（左右）、センタースピーカー、サラウンドスピーカー（左右）、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルやドルビープロロジックがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。

センタースピーカー
TV
サブウーファー（SW）*
フロントスピーカー（L、R）
サラウンドスピーカー（L、R）

* オプショナルモード

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
このチャンネルが入力しているときは、ディスプレイに“**LFE**”表示が点灯します。
ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。

Dolby PRO LOGIC II

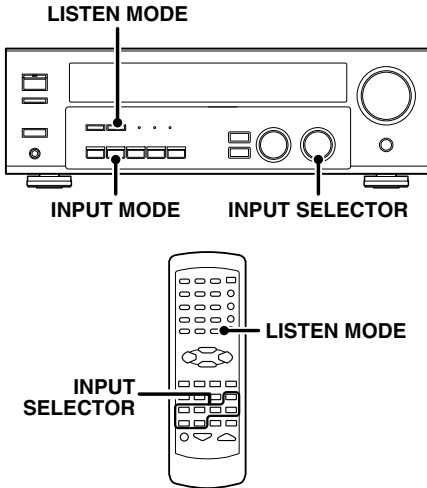
この新しいサラウンドシステムは、特に空間的な広がりや指向性、音の明瞭さに重点をおいて設計されています(DOLBY SURROUND マークのあるビデオやレーザーディスクソフト等)。すぐれたフィードバックロジック設計を内蔵し、サラウンドやステレオのマトリックスデコーディング、全帯域サラウンド出力が特長です。本機にプログラムされているPRO LOGIC IIモードは、MOVIE、MUSIC、PRO LOGICの3種類です。PRO LOGIC IIのMOVIEモードには、計算された質の高いサラウンドサウンドを再生するようプログラムされています。一方MUSICモードはサウンド空間を好みに合わせて最善の状態に調整できるよう、「Dimension」「Center Width」「Panorama」モードといったコントローラが用意されています。「Dimension」はサウンド空間の状態を前後の方向へ調整し、「Center Width」は左右およびセンタースピーカーのバランスを調整します。「Panorama」はサラウンドスピーカーを含めて前面のステレオ感を大きく拡大し、部屋全体を使って「音に包まれる」ような感覚を味わうことができます。

DSPモード

DSP(デジタルシグナルプロセッサー)サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。CDプレーヤーやテレビ、FMラジオなどのステレオ信号を入力しているときに有効です。
コンサートやスポーツなどをよりいっそうお楽しみいただけます。

DSPについて

通常音質は周囲の環境、特に残響音によって左右されます。DSPは入力ソースに、その音質をそこなわず、コンサートホールなどの残響音を加えるものです。

サラウンド再生

DOLBY DIGITALは DOLBY DIGITAL マークの入ったDVD、LDソフトおよび、DOLBY DIGITALフォーマットのデジタル放送などに有効です。DOLBY PRO LOGICは DOLBY SURROUND マークの入ったビデオ（またはDVD、LD）ソフトの再生時に有効です。

LISTEN MODE
INPUT MODE　INPUT SELECTOR

LISTEN MODE
INPUT SELECTOR

準備しましょう。

- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする（「スピーカーの設定をする」）。 →19
- INPUT SELECTORつまみで再生したい入力ソースを選ぶ。
- INPUT MODEキーで、再生したいソースのインプットモード（アナログまたはデジタル）を選ぶ。 →12
- インプットモードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズがでることがあります。

1 ビデオソフトを再生する。

2 LISTEN MODEキーを押してリッスンモードを選ぶ。

リッスンモードの設定は、それぞれの入力で独立して記憶しています。インプットモードがフルオートに設定されていると（“AUTO DETECT”が点灯）、入力信号のタイプやスピーカー設定の内容に合うリッスンモードが自動的に選ばれます。

LISTEN MODEキーを押すたびに切り換わります。
このとき、以下のリッスンモードの中から、現在の入力信号の種類やスピーカーの設定で再生できるモードのみが選べます。

DOLBY DIGITAL信号を入力しているとき：

（DOLBY DIGITAL、PRO LOGICまたはSTEREOのいずれかの表示が点灯します。）

① **DOLBY DIGITAL**：DOLBY DIGITALサラウンド 。（DOLBY DIGITAL表示が点灯）
② **PL II MOVIE**：PRO LOGIC IIサラウンド MOVIEモード。（PRO LOGIC表示が点灯）
③ **PL II MUSIC**：PRO LOGIC IIサラウンド MUSICモード。（PRO LOGIC表示が点灯）
④ **PRO LOGIC**：PRO LOGIC IIサラウンド PRO LOGICモード。（PRO LOGIC表示が点灯）
⑤ **STEREO**：通常のステレオ再生。

DOLBY DIGITALを選んだとき
DOLBY DIGITAL の文字が右から左へ流れます。

SP　L R S　DOLBY DI　AUTO DETECT DIGITAL　DOLBY DIGITAL　PRO LOGIC

DTS信号を入力しているとき：

（DTS表示が点灯）

① **DTS**：DTSサラウンド
② **STEREO**：通常のステレオ再生

DOLBY DIGITAL、DTS以外のアナログ信号またはデジタル信号のとき：

① **PL II MOVIE**：PRO LOGIC IIサラウンド MOVIEモード。（PRO LOGIC表示が点灯）
② **PL II MUSIC**：PRO LOGIC IIサラウンド MUSICモード。（PRO LOGIC表示が点灯）
③ **PRO LOGIC**：PRO LOGIC IIサラウンド PRO LOGICモード。（PRO LOGIC表示が点灯）
④ **ARENA**：DSPサラウンド ARENAモード。
⑤ **JAZZ CLUB**：DSPサラウンド JAZZ CLUBモード。
⑥ **THEATER**：DSPサラウンド THEATERモード。
⑦ **STADIUM**：DSPサラウンド STADIUMモード。
⑧ **DISCO**：DSPサラウンド DISCOモード。
⑨ **STEREO**：通常のステレオ再生ー音声はフロントスピーカーからだけ出力されます。（ステレオ表示が点灯）

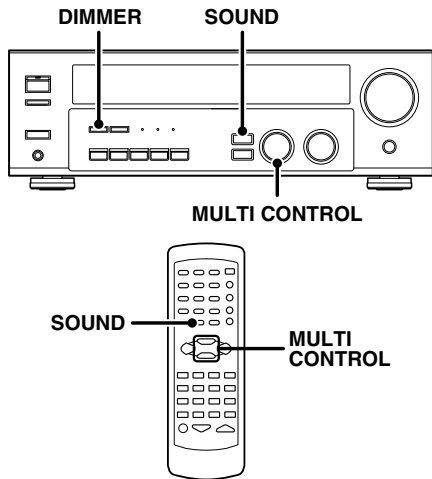
- ドルビーデジタルやDTS信号で、現在のスピーカー設定以上のチャンネル数が入力された場合は、自動的にダウンミキシング機能が働き、現在の設定に合わせます。

3 音量を調節する。

ご注意

- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないモードもあります。
- サラウンド効果がうまく得られない場合や、お好みのモードが選べない場合は、スピーカーの設定、インプットモードの設定をご確認ください。
- ドルビーデジタルサラウンドはもちろん、ひとつの機器ですべてのリッスンモードを楽しみたいときは、ドルビーデジタルフォーマットに対応した再生機器をご使用ください。

便利な機能

DIMMER SOUND
MULTI CONTROL
SOUND
MULTI CONTROL

音を調整するには

再生中にお好みで音を調整することができます。

❶ SOUNDキーを繰り返し押して調整したい項目を表示させる。

押すたびに次のように切り換わります。
このとき、モードによっては表示されない項目があります。

① C（センタースピーカーレベルの調整）*
② SR（サラウンド右スピーカーレベルの調整）*
③ SL（サラウンド左スピーカーレベルの調整）*
④ SW（サブウーファーレベルの調整）*
⑤ INPUT（インプットレベルの調整ーアナログモードのみ）→22
⑥ NIGHT（ミッドナイトモードのオン／オフードルビーデジタルモードのみ）
⑦ PANORAMA（パノラマモードのオン／オフ）**
⑧ DIMENSION（ディメンジョン調節）**
⑨ CENTER WIDTH（センター幅調節）**

* SOUNDモードでの設定は一時的な設定です。電源のオン／オフや入力の切り換えで、最初のSET UPで設定した値に自動的に戻ります。
** PRO LOGIC II ミュージックモードのみ

❷ MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使ってレベルを調節する。

- 調整項目は約8秒間表示されます。

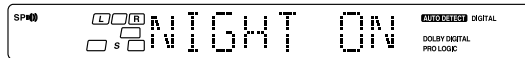
ミッドナイトモード（ドルビーデジタルモードのみ）

夜中に映画を見るときなど、音量をあまり上げられないことがあります。このミッドナイトモードを選ぶと、ドルビーデジタルの映像ソフトであらかじめ指定されている部分（急に音量が大きくなるシーンなど）だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。

❶ SOUNDキーをくり返し押して“NIGHT”を表示させる。

- CD/DVD、DVDまたはVIDEO2の入力で、サラウンドモードがドルビーデジタルのときのみ選べます。

❷ MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使ってON/OFFを選ぶ。

NIGHT ON

- 調整項目は約8秒間表示されます。
- ドルビーデジタルの映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。

PANORAMAモード（PRO LOGIC IIミュージックモードのみ）

PANORAMAモードを使って、「音に包まれる」感覚を楽しめます。

❶ SOUNDキーを繰り返し押して表示窓に“PANORAMA”を表示させる。

- PANORAMA設定表示が表示窓に流れます。

“PANORAMA”の文字が右から左へ流れます。

PANORAMA

❷ MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使ってPANORAMA ONまたはOFFを選ぶ。

① ON : パノラマモードがオンになる
② OFF: パノラマモードがオフになる

ON

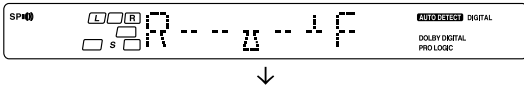
DIMENSIONモード（PRO LOGIC II ミュージックモードのみ）

DIMENSIONモードの調節で、全スピーカーのバランスを好みに合わせて変えることができます。

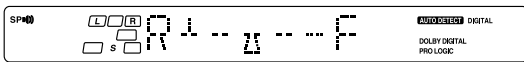
❶ SOUNDキーを繰り返し押して表示窓に "DIMENSION" を表示させる。
- DIMENSION表示が表示窓に流れます。

❷ MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使ってサウンド空間を前後に調節する。

サウンド空間が前寄りになる

↓

サウンド空間がニュートラルになる

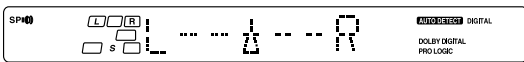
↓

サウンド空間が後ろ寄りになる

CENTER WIDTHモード（PRO LOGIC II ミュージックモードのみ）

センタースピーカーのみで音楽を楽しむとき、左右スピーカーまたはさまざまなスピーカーの組み合わせで楽しむとき、CENTER WIDTHモードで魅力ある音づくりができます。

❶ SOUNDキーを繰り返し押して表示窓に "CENTER WIDTH" を表示させる。
- CENTER WIDTH表示が表示窓に流れます。
- センタースピーカーがオフのとき、この機能は働きません。

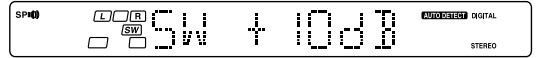
❷ MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使って左右およびセンタースピーカーの出力を調節する。

センター成分がセンタースピーカーからのみ聞こえる

センター成分が左右スピーカーからのみ聞こえる

- 他の設定を選ぶと、センタースピーカー、左右スピーカーからのセンター成分が、さまざまな組み合わせのスピーカーから同時に聞こえます。

サブウーファーの調節

リモコンを使って簡単にサブウーファーの音量を調節できます。

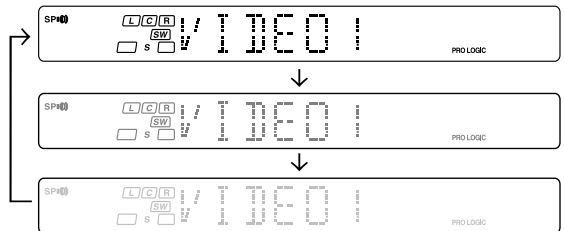
❶ SOUNDキーを繰り返し押して表示窓に "SW" を表示させる。

❷ MULTI CONTROLつまみ、またはMULTI CONTROLキーを使って音量を調節する。
- -10dBから+10dBの間で調節できます。

ディスプレイの明るさを調節する

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

DIMMERキーを押すたびに3段階で切り換わります。お好みの明るさにしてください。

↓

↓

96kHz LPCMの再生

96kHz LPCMに対応しています。96kHz DVDをお聞きになる場合はリッスンモードを"STEREO"にしてください。

- **F-AUTO**（フルオート）入力モードでは、リッスンモードは自動的にSTEREOに切り換わります。
- **D-MANUAL**（デジタルマニュアル）入力（STEREO以外のモードが選ばれているとき）では、"FS 96kHz"が表示され、スピーカーからは音が聞こえません。
  LISTEN MODEキーを押すとSTEREOモードに切り換わり、スピーカーから音が聞こえます。

DVDプレーヤー操作キー

下記のケンウッドの2グループのDVDプレーヤーは、DVDプレーヤー付属のリモートコントロールを使用しなくても、本機付属のリモートコントロールから直接操作することができます。

クループ1：DV-4900, DV-4070B, DV-2070, DV-203, DVF-9010, DVF-K7010, DVF-5010, DVF-R9030, DVF-R7030, DVF-3530, DV-402, DVF-3550, DVF-3050 and DVF-R4050
グループ2：DV4050, DV-303, DVF-R6030, DVF-K5020, DVF-3020 and DVF-303

お持ちのケンウッド DVDモデルにより、下記のどちらかの方法でリモートコントロールを設定してください。

グループ1に属するDVDプレーヤーをお持ちの場合

数字"1"キーと"POWER ⏻ "キーを同時に押す。(DVDプレーヤーの電源ではありません。)

グループ2に属するDVDプレーヤーをお持ちの場合

数字"2"キーと"POWER ⏻ "キーを同時に押す。(DVDプレーヤーの電源ではありません。)

- お持ちのDVDプレーヤーが上のどちらのグループにも記述されていない場合は、2つの方法のどちらともお試しになり、属するグループをお調べください。

リモートコントロールを使ったDVDプレーヤーの操作方法

1. DVD電源ボタンを2秒以上押すことによって、DVD プレーヤーの入切が切り替わります。
2. DVDの機能を動作するには、まずDVD電源を押し、それから操作方法マニュアルに従って、それぞれの機能を動作するためのボタンを押します。この時、DVD操作モードはそれぞれのDVD操作ボタンが押されてから15秒間維持されます。

DVDプレーヤー操作キー

上記の基本操作をするには、下の図に表記されているキー名をご参考ください。

数字キー (トラックの選択)
OSD (OSDメニュー)
MENU (メニュー)
△ (カーソル ⬆)
▽ (カーソル ⬇)
▷ (カーソル ➡)
◁ (カーソル ⬅)
◀◀ (検索)
▶▶ (検索)

POWER ⏻
DVD POWER (DVD電源)
RECEIVER (受信モード)
DOWN-PAGE-UP (ページ操作)
TOP MENU (タイトル)
RETURN (戻す)
ENTER (入力)
▶/II (▶ 再生)
II (一時停止)
■ (停止)

カセットデッキ、CDプレーヤー、MDレコーダー操作

ケンウッドのシステムコントロール付きのカセットデッキ、CDプレーヤー、MDレコーダーに接続しているとき、下記のキーで基本操作ができます。

→18

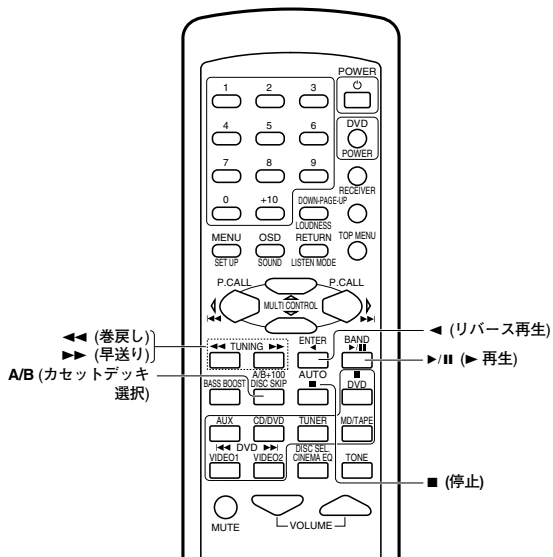
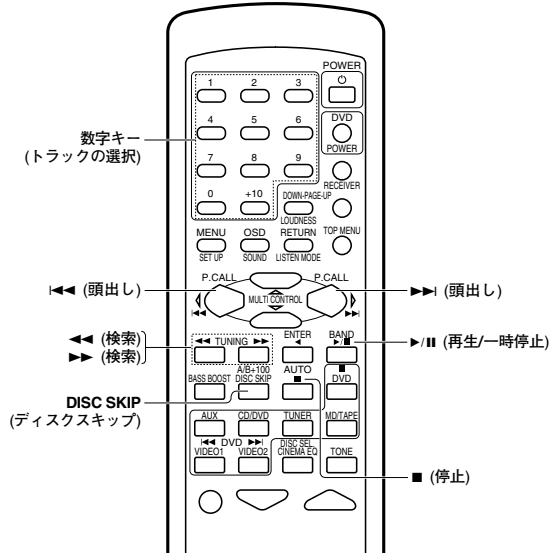
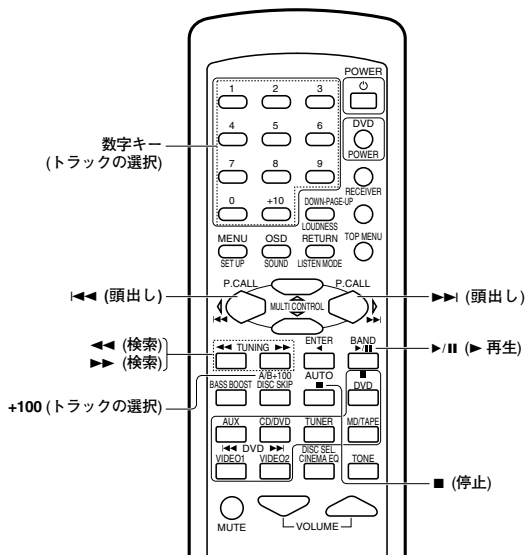
カセットデッキ操作キー

◀◀ (巻戻し)
▶▶ (早送り)
A/B (カセットデッキ選択)
◀ (リバース再生)
▶/II (▶ 再生)
■ (停止)

CDプレーヤー操作キー

数字キー (トラックの選択)
I◀◀ (頭出し)
▶▶I (頭出し)
◀◀ (検索)
▶▶ (検索)
▶/II (再生/一時停止)
DISC SKIP (ディスクスキップ)
■ (停止)

MDプレーヤー操作キー

数字キー (トラックの選択)
I◀◀ (頭出し)
▶▶I (頭出し)
◀◀ (検索)
▶▶ (検索)
▶/II (▶ 再生)
+100 (トラックの選択)
■ (停止)

ご注意

1. セットアップコードによっては、利用できる機能のうち、いくつかしか操作できないものもあります。
2. 上の図は、各機器で操作できる代表的な機能です。メーカーによっては、同様の機能を実行するためにこれとは異なるキーの組み合わせを使う場合があります。そのような操作を可能にするため、未使用の数字キーに予備の機能をプログラムしてあります。

故障かな?と思ったら

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

電源プラグをコンセントに差し込んだままで、POWER(パワー)キーをオフにして、ON/STANDBY(スタンバイ) ⏻ キーを押しながら、POWER(パワー)キーをオンにする。

●リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●MUTE(ミュート)がオンになっている。 ●スピーカースイッチがオフになっている。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。 →16 ●適当な音量にする。 ●MUTE(ミュート)をオフにする。 →23 ●スピーカースイッチをオンにする。 →21
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。	●一時 電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度 電源スイッチを入れる。
スピーカーの片側から音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。 →16
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない、または音が小さい。	●サラウンドスピーカー、センタースピーカーが接続されていない。 ●サラウンドモードになっていない。 ●サラウンドレベル、およびセンターレベルが最小になっている。	●「スピーカーの接続」を見て正しく接続し直す。 →16 ●サラウンドモードにする。 ●テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。 →20
DVDプレーヤーでドルビーデジタルのソースの再生を始めると最初の音が切れる。	●DVDプレーヤーの種類によって、いろいろな原因があります。	●インプットモードをデジタルマニュアルにしてからドルビーデジタルのソースを再生する。 →12
DVDを再生しても、音が出ない。	●インプットモードがデジタルマニュアルに設定されている。	●INPUT MODE(インプットモード)キーを押して、デジタルオートを選ぶ。 →12
ビデオ入力からの録画ができない。	●コピープロテクトがかかっている。	●コピープロテクトがかかっているソースは録画できません。

チューナー部

症　状	原　因	処　置
放送局が受信できない。	●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。	●アンテナを接続する。 →17 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。 →24
雑音が入る。	●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。	●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。

リモコン操作

症　状	原　因	処　置
リモコンで操作できない。	●リモコンが違った操作モードに設定されている。 ●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●オーディオコードおよび、システムコントロールコードが正しく接続されていない。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。 ●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。	●ソース選択キーまたは**DVD POWER**キーを押して、適切な操作モードを選ぶ。 ●新しい電池と交換する。 ●操作範囲内で操作する。 ●「接続のしかた」をみて正しく接続し直す。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。 ●録音が終わるまで待つ。

オーディオ部

ステレオ モード
定格出力（EIAJ）........ 50 W + 50 W（40 Hz ～ 20 kHz、0.7%、6 Ω）
実用最大出力........ 50 W + 50 W（EIAJ、6 Ω）
サラウンドモード（1ch動作時）
最大出力
FRONT（フロント）........ 50 W + 50 W（1 kHz、0.7%、6 Ω）
CENTER（センター）........ 50 W（1 kHz、0.7%、6 Ω）
SURROUND（サラウンド）........ 50 W + 50 W（1 kHz、0.7%、6 Ω）
全高調波歪率........ 0.15%（1 kHz、20 W、6 Ω）
周波数特性（IHF' 78）
CD........ （20 Hz ～ 70 kHz）+ 0 dB ～ -3 dB
SN比（IHF'66）
CD........ 95 dB
入力端子（感度/インピーダンス）
CD........ 400 mV / 47 kΩ
出力端子（レベル/インピーダンス）
TAPE REC........ 400 mV / 1 kΩ
プリアウト （サブウーファー）........ 1.5 V / 2.2 kΩ
トーン コントロール特性
BASS........ ±10 dB（70 Hz）
TREBLE........ ±10 dB（10 kHz）
ラウドネス コントロール特性
VOLUME 30 dBレベル........ ±8 dB（100 Hz）

デジタル部

対応サンプリング周波数........ 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz
入力端子（感度/インピーダンス/波長）
オプチカル........ （-15 dBm ～ -21 dBm）660 nm ±30 nm
コアキシャル........ 0.5 Vp-p / 75 Ω

ビデオ部

入力端子（感度/インピーダンス）
VIDEO（コンポジット）........ 1 Vp-p / 75 Ω
出力端子（レベル/インピーダンス）
VIDEO（コンポジット）........ 1 Vp-p / 75 Ω

FM チューナー部

受信周波数範囲........ 76 MHz～90 MHz
アンテナインピーダンス........ 75 Ω不平衡
実用感度（モノラル75 Ω）........ 1.6 µV/ 15.2 dBf（75 kHz DEV. SINAD 30 dB）
高調波ひずみ率（1 kHz）
モノラル........ 0.5 %（71.2 dBf 入力時）
ステレオ........ 0.7 %（71.2 dBf 入力時）
SN比
モノラル........ 75 dB（71.2 dBf 入力時）
ステレオ........ 68 dB（71.2 dBf 入力時）
実効選択度（±400 kHz）........ 70 dB
ステレオセパレーション（1 kHz）........ 50 dB
周波数特性........ （30 Hz～15kHz）+0.5 dB、−3.0 dB

AM チューナー部

受信周波数範囲........ 531 kHz～1,602 kHz
実用感度（30%mod.、S/N 20 dB）........ 16 µV / (600 µV/m)
SN比（30%mod.、1 mVインプット）
モノラル........ 50 dB

電源部・その他

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示）........ 140W
ACコンセント
連動コンセント........ （最大合計90 W）
最大外形寸法........ 幅 : 440 mm
高さ : 143 mm
奥行 : 303 mm
重量（正味）........ 7.9 kg

ご注意
1.これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
2.極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約1日ほど経過すると、以下の内容が消えますのでご注意ください。

- 電源オン／オフの状態
- 入力切換の設定
- 映像出力
- スピーカーオン／オフ
- ボリュームの値
- BASS、TREBLE、INPUTレベル
- DIMMERレベル
- MD／TAPE選択モード
- リッスンモードの設定
- スピーカーセットアップの内容
- サブウーファーリミックス オン/オフ
- 距離の設定
- インプットモードの設定
- ミッドナイトモードの設定
- PRO LOGIC IIモードの設定
- 受信バンド
- 周波数
- プリセット放送局
- 受信方法
- CINEMA EQ オン/オフ
- LOUDNESS オン/オフ

保証とアフターサービス(よくお読みください)

保証書(別途添付)
製品には保証書が(別途)添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間
保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は
修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。
(お問い合わせ先は、添付の「ケンウッドサービス網」をご覧ください。)

補修用性能部品の保有期間
当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について
システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器(基本システム)すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼される時は
「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は
保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理／持込修理
「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号(Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

保証期間が過ぎている時は
保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み
(有料修理の場合は、次の料金をいただきます)
- 技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代: 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料: 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話(　　　)　　　-

KENWOOD
株式会社 ケンウッド
〒150-8501　東京都渋谷区道玄坂 1-14-6

商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。
カスタマーサポートセンター東京　電話(03)3477-5335　FAX(03)3477-5334　〒153-0042 東京都目黒区青葉台 3-17-9
カスタマーサポートセンター大阪　電話(06)6394-8085　FAX(06)6394-8308　〒532-0034 大阪市淀川区野中北 2-1-22
アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、添付の「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。